

アカデミックフェス 事後レポート

企画名：二酸化炭素回収・貯留（CCS）の法制度の構築

企画名（英語）：Legal framework for Carbon dioxide Capture and Storage

時間：13：00～14：30

会場：アカデミーコモン 2F ROOM-A（A3会議室）

登壇者：本学法学部 柳憲一郎専任教授

本学環境法センター 小松英司専門研究員

早稲田大学法学部 大塚直教授

日本 CCS 調査株式会社広報渉外部 金森禎文広報渉外グループ長

一般財団法人石炭エネルギーセンター 須山千秋情報ビジネス戦略部次長

開催概要：

本企画は、二酸化炭素を回収し、海底下に貯留するという低炭素社会の構築に寄与するための法政策・事業化への現状を説明するものである。本学がこれまでに採択した研究の概要や成果、実証試験を実施する事業者等から CCS の事業化に向けた取り組みなどに関し発表を行い、CCS の導入普及の法制度等のあり方について議論を行うものである。

開催概要（英語）：

This program was addressing the policy and legal framework and pilot project for commercialization of CCS in Japan and also legal platform of CCS in Asian Region. The outline and output of the research that was adopted as a research fund in Meiji University and pilot project in Tomakomai, CCT (clean coal technology) towards commercialization of CCS were presented.

Finally the legal framework for introducing and promoting CCS in Japan was discussed among presenters and audiences.

開催内容：

わが国のみならず、アジア域においても二酸化炭素の排出抑制は重要な課題となっており、二酸化炭素の大規模削減を可能とする技術の一つが CCS である。CCS は今後経済発展するアジア域での有望な温暖化対策技術となると期待されているが、社会制度が整備されていないなど多くの課題・障壁を克服する必要があるチャレンジングな分野となっている。本企画では、下記の発表を行い、今後わが国やアジア域で CCS を普及させるための法制度、及び温暖化対策のあり方について問題意識を共有するとともに、登壇者と来場者で議論を行った。

【プログラムと発表内容】

1. 開会の挨拶 コーディネーター：柳教授

2. CCS 研究の現状

- ・温暖化対策と CCS の法政策…柳教授

本学で採択した研究の内容及び CCS の法政策スキームに関する研究成果に関する発表を行った。

- ・日本における CCS 法…大塚教授

わが国の現行法の問題点と CCS を導入・普及させる 2 つ CCS 法モデルに関する発表を行った。

- ・アジア域の CCS 展望と共通プラットフォーム…小松専門研究員

アジア域の温暖化対策としての CCS の必要性和アジア諸国で CCS を導入するための法規制のあり方に関する発表を行った。

3. CCS 事業化に向けた取組み

- ・苫小牧における CCS 実証試験について…金森氏

経産省が進めている CCS 実証試験に関する発表を行い、その事業の紹介ビデオ(約 10 分)を上映した。

- ・石炭業界の低炭素化への取組み…須山氏

石炭業界の低炭素化への取組みや温暖化対策としての石炭利用技術について発表を行った。

4. 登壇者と来場者との対話（各発表者に質疑応答）

発表、議論の他、研究概要を記した「CCS の総合政策研究の成果」、日本 CCS 会社広報資料、石炭エネルギーセンター広報資料を配布し、CCS 研究の現状を説明した英文ポスター（4 件）と石炭エネルギーセンター広報邦文ポスターを掲示するなど CCS の現状の取組みについて普及・啓発を行った。

【本企画の成果】

本企画は来場者数が期待するほど多くはなかったが、参加した大学・企業の研究者、来場者と情報共有を行い、議論を行うことができた。参加した企業や来場者（主に学生）等と連携しながら今後の本研究の進展を期待できる有意義な機会となった。

以 上